

腐ったミカン

老兵として去ってほしい

「研修で退職強要」提訴

大阪 追手門学院職員ら

職員研修で「腐ったミカン」などと言われ、退職を繰り返し迫られたのは違法だとして、学校法人「追手門学院」(大阪市)の男性職員ら3人が24日、同法人や研修を実施した会社などに計約2200万円の損害賠償を求める訴えを大阪地裁に起こした。3人は研修後にうつ病を発症するなどして休職しており、「人格を否定する発言で退職を強要された」などと訴えている。

同法人は追手門学院大(大阪府茨木市)や追手門学院大手前中・高校(大阪)などを運営。3人は40代で、大学教務課や中・高校の事務室に勤務している。016年6月、「求めら

- 職員らに対する主な発言 (訴状に基づく)
- <職員研修での講師の発言>
- ・あなたのように腐ったミカンをおいておくわけにはいかない。頑張ろうとしているミカンも腐ってしまう。
 - ・人生の天国と地獄を自分なりに生きてきたという重みと存在感を全く感じない。
 - ・私が執行部の立場だったら、あなたはいらない。
 - ・老兵として去ってほしい。
 - ・明確に負のオーラばかり。
 - ・賞味期限切れちゃったかな。
- <面談での理事長の発言>
- ・「退職勧奨を今後一切するな」とかね、そんな話はもうやめてくれ。
 - ・しばらく見るで、あなたの行動。出なかつたら、もう従来通りの3月末退職勧奨ね。
 - ・もっとね、自分の能力を生かすところ、職場もあるでしょう、という話をしている。
 - ・仕事してくれないのだったらいらない。その域を今の段階で超えていないのだったら、やはり辞めろと言うしかない。
 - ・真面目に仕事をやっているだけではない。

れる職員像」に達していない方には今後の職のあり方もご検討いただく」などと職員らに通知した。

その後、法人幹部が3人と面談し、「能力が不十分」などの理由で翌年3月末での退職を勧めた。その上で、「最後の機会」として研修を受講し、改善が見込まれなければ退職勧奨を受けられるよう指示した。

研修は16年8月、コンサルタント会社「ブレインアカデミー」(東京)が実施し、3人を含む職員18人が参加した。「自律的キャリア形成研修」と称し、昼休憩を除く1日8時間の日程で5日間行われた。参加者は1人ずつ自己改善をテーマに意見を発表。同社の男性講師は講評の中で、「腐ったミカンをおいておくわけにはいかない」「あなたはいらない」「老兵として去ってほしい」などと発言した。さらに、3人は研修後、法人幹部との面談に個別に呼び出された。退職勧奨をやめるよう求めたが、弁護士でもある川原俊明理事長が「アホなこと言わんといってくれ」「仕事してくれないのだったらいらない」などと発言したという。3人は研修後に、うつ病を発症するなどして休職。うち1人は休職期間が満了したとして解雇された。提訴後、大阪市内で記者会見した原告の一人は「研修でのパワハラ発言に耐えられなかった。職場環境をただすためにも提訴に踏み切った」と話した。法人は「訴状が屈次次第、内容を確認し、対応する」としている。【伊藤暁】



提訴後、記者会見する学校法人「追手門学院」の職員ら—大阪市内で24日、服部陽撮影